



コロナは多くの市民や事業者に大きな痛手を与えています。支えになる施策を提案してきましたが、十分とは言えません。これからも皆様の声を届け、改善へ全力をつくします。

コロナ禍 今こそ、自治体の役割発揮を

日本共産党は、「市長を先頭に、市民の困難を積極的に把握し、国の動向を待たずに必要な対策を行い、国も動かす」ことを求めてきましたが、長岡京市がそうだったとは言えません。

そこで市に5回の申し入れを行い、全戸配布や福祉・保育現場への聞き取り、1450事業所への補助金案内とアンケート、学校保護者アンケート等に取り組んできました。ご協力ありがとうございました。



多かった声は「長岡京市は何もしないの?」「市は、市民の実情を知っているの?」という声です。その中でひとりの事業者さんが始めた「水道料金当面半額に」の署名が大きく広がりました。

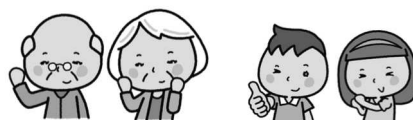
「水道料金当面半額に」 求める署名1563筆

市内の事業者さんが始めた請願署名は、日本共産党5人と小谷議員のみ賛成で「否決」となりましたが、水道料金の値下げへ引き続きがんばります。

「市は自治体の役割発揮を!」という市民の声の広がりが、「5000円商品券」をはじめ各種対策を実現させました。これで十分とは言えず、引き続きがんばります。



市民の声で実現



商品券 全市民に1人5千円の商品券

市内の登録店舗で使える「新しい生活様式応援券」が、7月末～世帯ごとに簡易書留で届けられます。利用期限は11月末です。



福祉・保育事業所等に10万円

民間の幼稚園・保育所・学童保育・介護・障がい福祉事業所に、「事業継続」を目的に一律10万円が給付されます。



下水道使用料値上げ1年延期

3月議会で可決した(日本共産党は反対)「10月からの値上げ」を、1年延期します。(水道料金の値下げは予定通り10月に実施)

〈その他実現したコロナ緊急対策〉

- ◆中学3年生に授業動画サイト「スタディサプリ」導入、他の学年も休校時に導入(必要生徒に機材貸出し)
- ◆学校にウェブカメラとマイク購入
- ◆体育館に冷風機や大型扇風機
- ◆体温計や間仕切りなど避難所必要品購入
- ◆発熱者向け避難所設置
- ◆自主防災会補助3万円追加
- ◆マスク備蓄16万枚
- ◆保育所等にマスク等支給
- ◆障がい者施設の製品を市が買い上げ
- ◆公共施設の蛇口をレバーや自動に などが実現

お困りごとはありませんか?

暮らしや仕事、健康、教育など、いつでも

日本共産党 ☎954-5166 へ!

✉jcpnagaokakyo@gmail.com



↑スマホでも

市民の声にもとづき提案



学校再開 どの子も安心でき「楽しい」学校に

寄せられた声

保護者アンケートから

[休校]学校・何もなかった。子どもへの説明、声を聞くこと、もっとできたのでは／ずっとゲームばかり／週に一度でも学校で課題の進捗を見てくれれば／家で喧嘩が絶えなかった／昼ご飯やおやつ代、光熱費もかさんだ／指示に従うだけ。宿題も大量、親が教えることに など [再開]じっくり分かるまで教えて欲しい／あまりプレッシャーをかけないで／行き渋りが増えている／『感染症ってなに?』『みんなが楽しく過ごすには』など活きた学習してほしい／休憩時間が短い。遊ばせてやりたい など [行政]開かれた話し合いができる場を／第2波に準備を／9月新入、新学期を／子どもの気持ちに寄り添った声かけを など



せんせいが、いそがしそう。
わかるまで、おしえてほしい。



休校中、市教委からは一方的な事務連絡や課題ばかりで、子どもたちの状況を思いやる働きかけが乏しく、保護者から多くの不安の声が寄せられました。党議員団の指摘に市は「不十分な点があった」と認めました。

市は早々と夏休み短縮を打ち出しましたが、学校が子どもたちを「まるごと」迎え入れ、「安心できる場」になることが必要です。文科省も「学習内容は次年度に回すなども含め柔軟に」と通知しています。



日本共産党の提案

- ◇ カリキュラムは詰めこまず重点を絞り、子どもを置いてきぼりにしない
- ◇ どの子にも「学びの保障」と「密を避ける」ために少人数学級の実現や、教員などの増員
- ◇ 教科学習だけでなく、子ども同士が関わり合う時間を大切に（行事やクラブ等） など

<市の答弁>

一定の授業時間は必要と判断し、夏休みを短縮。必要に応じ補習等を行う。



福祉・保育 必要不可欠な事業所と職員を守れ

寄せられた声

聞き取り調査から

利用者の自粛により、経営が厳しい／イベント中止で製品が販売できない／介護するのに3密回避は不可能／フェイスシールドや防護服がない／消毒液が届かない／高齢の職員が辞めた／保護者の温度差が大きい／スタッフの負担が大きい／手当を出してやりたい／消毒の方法など、どこまでやればいいのか不安／感染が出たら閉鎖になるが、利用者はどうなる／職員にPCR検査を／支援学校の方がむしろ安全だ／市は会議を開いて欲しい など



コロナに感染しないか、させないか
ずっと、ピリピリしています



緊急事態でも休まず、感染リスクの中で市民生活を支え、今も最前線に立つのが、介護・障がい・保育・学童保育などの事業所です。日本共産党議員団が、各事業所に聞き取り調査を行う中でお聞きしたのは、事業収入の減収や人手不足、現場の負担増などの切実な声です。

市長はこれらの事業所について「市民生活に大きな役割」と感謝を述べ、各事業所に10万円の給付を表明しましたが、現場の切実な声に正面からこたえるべきです。



日本共産党の提案

- ◇ 事業所の減収に補償を
- ◇ 介護・福祉・保育・学童保育の職員に奨励金を
- ◇ フェイスシールドやガウン等も支給を
- ◇ 障がい福祉事業所の工賃支援や製品の買い上げを
- ◇ 感染発生時の応援体制づくりに市が支援を など

<市の答弁>

減収は、持続化給付金や雇用調整助成金の利用を。職員の奨励金は考えていない。

自治体の役割果たさせよう



事業者支援

市が地域経済を守りぬく先頭に

寄せられた声

事業所アンケートから

[経営]売上3~4割減だが何の支援もない/家賃の支援を早急に願います/夏休み短縮で夏期講習ができない/政府のコロナ戦略は稚拙だ/マスコミが不安を煽りすぎ/消毒などの経費がかさむ[従業員]従業員の家庭状況で不公平が出る/スタッフを減らし時短営業している/従業員を守るため雇い続けている[申請]大量の手続きで仕事の手が止まる/申請に時間がかかりすぎる/政府は文句出たからやっています感じがすごい/今日明日にも資金が必要なのに融資が遅い/なにをどうすればいいのかわからない など



このままでは、商売を続けられない。政治が応援してほしい…



政府の「補償なき自粛要請」で、事業者は深刻です。日本共産党議員団は市内1450事業所にアンケートを送付し、寄せられた切実な声をもとに質問しました。

市長に「『廃業させない』と表明を」と求めましたが「姿勢は支援策の実行で示す」、切実な実態を掴むために「全事業者のアンケートを」との求めには「商工会や窓口対応で把握できている」と述べるにとどまりました。もっと事業者の生の声に寄り添うべきです。



日本共産党の提案

- ◇ 給付金の対象外の業者にも支援を
- ◇ 給付金・補助金申請の簡素化、サポート体制を
- ◇ 固定費補助を
- ◇ すぐに必要な資金の借りられる制度を
- ◇ 消毒業務負担への支援を
- ◇ 学校休校等による発注停止の救済を など

＜市の答弁＞独自の補助はこれ以上考えていない。消毒は事業者一人一人の実践が大事。給食調理業務は休校でも委託料を支払った。

【市の基本姿勢】

～市民を積極的に助ける市役所を～

市が全市民・全事業所を対象に、困りごとを積極的に聞き支える役割と、「市民との対話」をつらぬくよう求めました。市長は「どの窓口でもその人のニーズに応える部署につなぐ」「緊急時は、意見をきく間もなく判断する場合もある。責任は私が負う」などと答弁しました。

【PCR検査】



～先手先手の検査で感染拡大防止を～

18道県の知事が5月、政府に対して「積極的検査で感染拡大防止を」と提言しています。日本共産党も大いに賛成し政府に求めています。

長岡京市にも「医療・福祉・保育施設や学校など、集団感染に注意すべき施設の全員検査を」と求めましたが、市は「医療体制を圧迫する」と拒否。しかし感染拡大を早めに防いでこそ医療体制も守れます。

【新庁舎】

～コロナ後の社会に合った見直しが必要～



△ [発掘調査中の市役所前]

新庁舎は11期庁舎と2期庁舎に分けて建てられます。

2020年 埋蔵文化財調査
一期庁舎 建築

2023年 一期庁舎 供用開始

2024年 二期庁舎 建設

2026年 二期庁舎 供用開始

2027年 10月完成予定

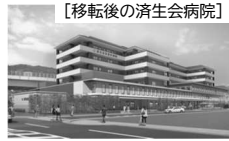
108億円の新庁舎（産業文化会館・保健センターを併設）は、いま工事業者の募集中で、12月議会で契約の議決を得るとしています。

「コロナ後の庁舎のあり方を再検討すべきではないか」と求めましたが「新庁舎は3密にも対応できる。速やかな建設こそ」との答弁でした。

済生会京都府病院 2022年秋の新築移転予定

(2020年7月着工～2022年6月末竣工予定)

下海印寺に移転する済生会病院の工事が始まりました。市は約28億円の財政支援を予定しています。



現在の病院は移転後「向日が丘支援学校の建て替え時の仮校舎」として活用が予定されています。



市はその後、返却される土地を「売却する」としていますが、貴重な市有地であり、市民の声を聞くべきです。

講演会の 市の「後援」拒否問題

表現の自由の尊重を

市民の主催する香山リカ氏の講演会の「後援」を市が拒否。理由は「一昨年、南丹市で香山氏の講演を妨害する脅迫電話があった」と言います。

「本来している後援を拒否し、脅迫行為への抗議もしない。市が脅迫者を喜ばせるものだ」と追及しました。京都弁護士会長も「表現の自由の萎縮につながる」と声明を出しています。

古紙回収 誰もが出せる環境整備を



古紙は家から
400mほど離れた
回収場所まで
運ぶのが大変です
雨が降ると
とても困ります

長9校区 女性



古紙回収は自治会や子ども会等が取り組まれています。市内全域には行き渡らず、回数や品目も様々です。

「市の責任で、誰もが古紙を出しやすい環境整備を」と求めましたが、市は従来からの自治会や子ども会まかせの姿勢にとどまっています。

指定ごみ袋を問う

市は、来年2月1日より指定ごみ袋制度を導入しようとしています。

市はその目的は「分別の推進」と言っていますが、それならば、市民が分別しやすい環境こそ必要です。



あなたのご意見・ご要望をお寄せください。

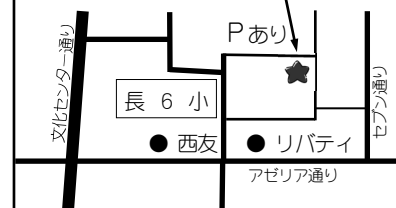
党議員団 FAX955-9741
(直通) 電話955-9551

なんでも相談会

日時 8/8(土)13時～16時
場所 日本共産党

乙訓地区委員会

長岡2丁目6-10 ☎954-5166



※この日以外でもご相談ください。

※よろしければおきかせください

ご住所

お名前

お電話

e-mail jcpnagaokakyo@gmail.com

日本共産党長岡京市会議員団

検索